

こちらも敦賀初 赤レンガ倉庫が登録文化財に



答申を受けた赤レンガ倉庫の煉瓦塀・北棟・南棟（左から）

国の文化審議会が12月12日に答申を出し、金ヶ崎の旧紐育スタンダード石油会社倉庫（通称：赤レンガ倉庫）が登録有形文化財（建造物）になることが発表されました。登録有形文化財となるのは、同倉庫の北棟・南棟・煉瓦塀の3件で、敦賀市内の建造物としては初めての登録となります。同倉庫は、明治38年に建設された県内では最大規模の煉瓦造建築物であり、国際色豊かだった敦賀港の面影がうかがえる数少ない産業遺産です。今回の答申を受け、今後は官報告示を経て3月頃に正式登録となる見込みです。

※ 登録文化財制度とは？

厳しい規制の下に手厚い保護を図る指定文化財とは異なり、文化財をかなり自由に活用しながら残そうというゆるやかな保護制度です。

地震や水害、雪害などの自然災害に備え 4団体と災害協定を結ぶ



協定書にサインをする河瀬市長と各団体の代表者

地震や水害、雪害などの災害時に、被災した市内の施設や道路などの機能存続や早期復旧を図ろうと、市は12月22日に、敦賀市土木協会など4団体と災害協定を結びました。協定を結んだのは、土木協会のほかに、敦賀市建築協会、福井県電業協会敦賀支部、北陸電気保安協会の各団体。この日は、各団体の代表が市役所を訪れ、それぞれ河瀬市長と協定書を交わしました。河瀬市長は「協定による連携を生かし、安心できるまちづくりに取り組みたい」と期待を寄せました。

し尿処理手数料の適正化を目指し 検討委員会が市に答申



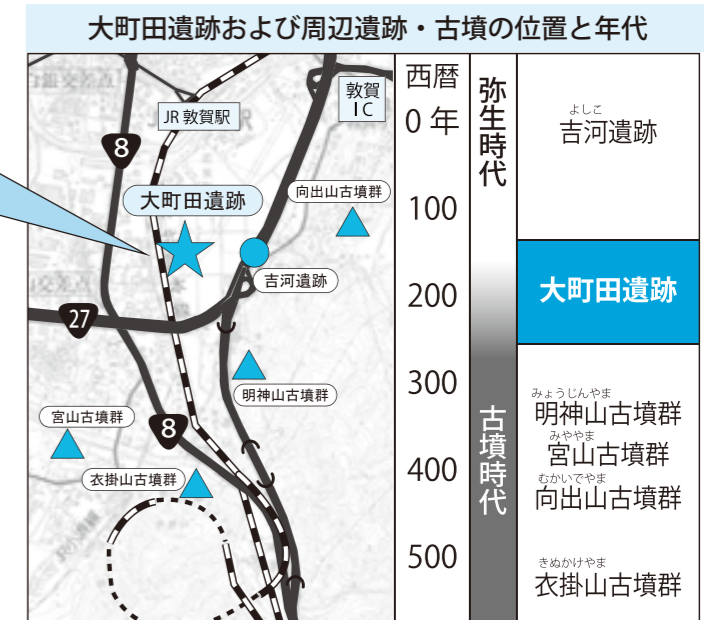
あさめまよした
浅沼美忠会長から答申書を受け取る河瀬市長

し尿の汲み取り料金など
の見直しを行っていた
敦賀市し尿処理手数料適正
委員会が、12月17日に検
討結果を河瀬市長に答申し
ました。答申では、下水道
料金の値上げやし尿収集の
コスト増加などにより、業
者が汲み取り先から徴収する収集運搬手数料を18ℓにつき18円上乗せ、また業者が衛生処理場に支払う使用料を180ℓにつき5円上乗せすることを適当としました。市ではこの答申をもとに検討し、新料金体系の条例案を3月議会の定例会に提出する予定です。

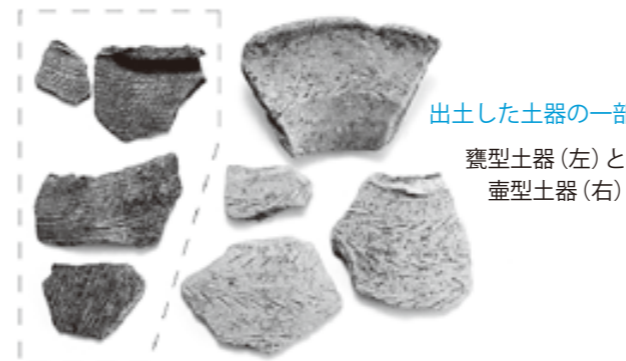
昨年はどんな1年？ 敦賀市10大ニュースが決定

① 敦賀市防災センター完成	⑦ 国の名勝「柴田氏庭園」が敦賀市に寄附、西福寺建造物が国の重要文化財に指定
② 国道8号敦賀バイパスが全線開通	⑧ 濱野陸矢君（中央小）が全国小学生陸上競技交流大会（5年男子100m）で優勝、河下琢磨君（敦賀工業高校）がアジアジュニアポルト選手権大会出場
③ 北陸新幹線「敦賀駅部の整備」が盛り込まれる	⑨ きらめきフェスティバル2008会場で、大型テントが飛ばされ、10人の死傷者を出す事故が発生
④ 「サンピア敦賀」が新たな運営会社に引き継がれスケート場も存続される	⑩ 廃棄物最終処分場で抜本対策工事が始まる
⑤ 敦賀港鶴山南地区「多目的国際ターミナル」が一部供用開始	
⑥ 「人道の港 敦賀ムゼウム」開館	

敦賀で初めて 弥生末期～古墳初期の集落跡を発見



中郷体育館北隣の土地で進められていた「大町田遺跡」の発掘調査が昨年12月に終了しました。この遺跡は、中郷公民館の新築移転に伴う試掘調査で発見され、昨年5月から発掘調査が行われました。調査では、竪穴住居など8棟の住居跡が見つかった他、壺や甕などの土器約100個が出土しました。これらの遺構は、弥生時代後期から古墳時代初めのもものと判明し、この場所で100年近く集落があったことを示す貴重な資料となりました。大町田遺跡の付近には、これまで弥生時代中期の吉河遺跡や、古墳時代前期の明神山古墳群が見つっていますが、その間の時代の遺跡は発見されておらず、今回の発見は、空白の時代を埋める重要な発見となりました。なお、出土した遺物の一部は現地に建てられる中郷公民館で展示する予定です。



出土した土器の一部

甕型土器（左）と壺型土器（右）

発掘調査に携わった
専門家に聞く！

なかのたかくろう
中野 拓郎 学芸員

Q 今回の発掘調査で一番驚いたことは？

一番驚いたのは、一つの穴の中から、敦賀で作られた土器に混じって、近江産（滋賀県産）の土器が見つかったことです。その穴にはご飯を炊く道具である甕が5個、貯蔵用である壺が2個、同時に埋めたように折り重なって見つかり、その中の一つの甕が近江産とはっきりわかる粘土で作られた、独特の形のものでした。このことは、大町田遺跡という場所で全く同じ時期に、敦賀風と近江風のご飯が作られていた、つまり滋賀県からこの土器と一緒に来て、敦賀に住みついた人々がいた可能性があると思います。

Q 今後どのような研究をしていくのですか？

これからが大変です。発掘物の形や文様を一つひとつ調べ、見つかった場所や状態から、年代を特定していきます。年代が分かることで、大町田のムラに最初に住み始めた時期や一番大きくなった時期など、その時代のムラの変遷が見えてきます。どんな人が住んで、どんな生活をしていたのか、そして、どのような形でムラが終わったのか、大町田遺跡だけでなく敦賀の成長過程が分かるやりのある研究が待っています。